

平成18年度 病害虫発生予察情報

発生予報第7号（8月後半～9月前半）

平成18年8月16日
島 根 県

予報の概要

| 区分 | 農作物名 | 病害虫名 | 予想発生量 | | |
|------|------|----------|-----------|---------|-------|
| 普通作物 | イネ | 穂いもち | 少ない | | |
| | | 紋枯病 | 平年並～やや少ない | | |
| | | 白葉枯病 | やや多い | | |
| | | ツマグロヨコバイ | 平年並 | | |
| | | トビイロウンカ | 多い | | |
| | | コブノメイガ | 平年並 | | |
| | | カメムシ類 | 多い | | |
| | | 果樹 | ダイズ | ハスモンヨトウ | やや少ない |
| | | ナシ | 黒斑病 | 平年並 | |
| | | | | シンクイムシ類 | やや多い |
| 果樹 | カキ | ハダニ類 | やや少ない | | |
| | | カメムシ類 | やや多い | | |
| | | うどんこ病 | やや多い | | |
| | | カキミガ | 平年並 | | |
| | | カメムシ類 | やや多い | | |
| 野菜 | イチゴ | うどんこ病 | やや少ない | | |

中国地方1か月予報（8月12日～9月11日・広島地方気象台8月11日発表）
向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量と日照時間は平年並みの見込みです。

…斑点米カメムシ類注意報（8月4日発表）発令中…

防除所ではウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。

アクセスはこちら <http://www.jpnpn.ne.jp/shimane/>

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①初発生は8月7日で、平年に比べてやや遅い。
- ②伝染源となる葉いもちの発生量は平年に比べて少ない。
- ③8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 全域
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②8月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 やや多い

予報の根拠

①全般の発生量はほぼ平年並みである。

②5月以降の積算降水量は平年に比べて多い。

③8月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 全域

発生量 平年並

予報の根拠

①予察灯での誘殺数は平年に比べて少ない。

②8月上旬の巡回調査では寄生虫数21.0頭/50株（平年39.2頭）、発生圃場率76.9%（同84.5%）ともに平年並みである。

③8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 全域

発生量 多い

予報の根拠

①予察灯の梅雨明けまでの誘殺数は平年に比べて多く、飛来ピークは7月18日である。

②8月上旬の巡回調査では寄生虫数1.9頭/50株、発生圃場率23.1%で平年に比べてやや多い。

③8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

(6) コブノメイガ

予報内容

発生地方 普通期栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

①8月上旬の巡回調査では被害株率16.0%（平年18.7%）、発生圃場率61.5%（同66.8%）でほぼ平年並みである。

②8月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

…斑点米カメムシ類注意報（8月4日発表）発令中…

(7) 斑点米カメムシ

予報内容

発生地方 全域

発生量 多い

予報の根拠

①8月上旬の出穂圃場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.8頭/20回振、調査した62%の圃場で捕獲され、発生量、発生圃場率ともに多い。（昨年同期：1.75頭/20回・58%）

②8月の気象は本虫の発生にやや助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、出雲市で平年比48.1%、益田市で平年比34.0%と少ない。

②8月中旬のダイズ圃場調査では発生を確認していない。

③8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 8月中旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。

② 向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生時期 やや遅い

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(安来市・出雲市)のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや多い。

② 8月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 8月中旬の巡回調査では、寄生葉率は11.3%(平年値26.3%)とやや低く、寄生虫数も26.6頭/50葉(平年93.0頭/50葉)とやや少ない。

② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(出雲市)のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや多い。

② 8月の気象はカメムシ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 8月中旬の巡回調査では発生量は平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) カキミガ(第2世代)

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 8月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 予察圃場(出雲市)のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや多い。

② 8月上旬の巡回調査でカメムシの被害果率1.2%(平年1.4%)は平年並みである。

③ 8月の気象はカメムシ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) イチゴ（苗）

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 イチゴ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では発病を認めていない。

② 8月の気象は気温は平年並みか高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>